ヤングアダルト

YA本研究会だより

2026.9.20
Vol.5

10月のイベントにむけて！【第5回YA本研究会 9/20】

8月の糸島市立図書館夏まつりの大盛況から、早一ヶ月！10月のイベントのブックカバー決定、看板作成や特集のタイトル決定、資料集めなど盛りだくさんの内容で会は進行しました。

今年度2回目のビブリオバトルも行い、小学生の見学者を交えて、楽しくのびのびと活動できました。今回も投票の結果、2冊のチャンプ本が決定👏

今回のビブリオバトルのチャンプ本もなんと2冊！

ハードカバーあり

『また、同じ夢を見ていた』 住野　よる/著（双葉文庫）

「人生とは和風の朝ごはんみたいなものよ」小柳奈ノ花は「人生とは～」が口癖のちょっとおませな女の子。ある日、彼女は草むらで一匹の猫に出会う。そしてその出会いは、とても格好いい“アバズレさん”、手首に傷がある“南さん”といった、様々な過去を持つ小生たちとの不思議な出会いに繋がっていく。

〈おすすめポイント〉

主人公の奈ノ花の口癖がユーモアたっぷりでおもしろいところがオススメです。

地の文が奈ノ花の語り口調になっているので、さらさら読めるところもオススメできます。

『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井　光/著（新潮文庫）

主人公藤坂燈真は、大御所ミステリー作家の隠し子です。一度も会ったことがない父親に対して、燈真は恨むわけでもなく完全に冷めきっていました。そんなある日、父親が亡くなり、「誰にも見せてない最高傑作の遺作があるらしい」という謎が舞い込んできます。そこから父の遺作を探す旅が始まるのですが、なぜ父に無関心な彼が父の遺作を追うのか、そしてその原稿に隠された秘密とは…。ここから美しくも切ないミステリーが始まります。

〈おすすめポイント〉

①紙の本だからこそ味わえる、唯一無二の読書体験。
　読み終わった時に初めて、この本全体に施されていた仕掛けに気づき言葉を失う。

②その仕掛けが、最後には物語そのものとつながってくること。

その他の紹介された本は・・・

ハードカバーあり

『本日は、お日柄もよく』 原田　マハ/著（徳間文庫）

所蔵なし

『春夏秋冬代行者　夏の舞』 暁　佳奈/著（KADOKAWA）

『さがしもの』 角田　光代/著（新潮文庫）

小学生を交えたビブリオバトルはいつにも増して、YAメンバーの発表する姿が頼もしく映りました。アフタートークではそれぞれのお気に入りの本の話題で大盛り上がり。小学生もすっかりYAメンバーの中に溶け込み、終始なごやかな雰囲気のうちに終了しました。



YA本研究会の展示コーナー

今回のテーマ

『読書の秋　これを機に

　ぜひ読んでもらいたい一冊』

【期間9/20～12/5】

糸島市立図書館/発行